

Hello, Kids!

特集：英語が好きになる評価の書き方

巻頭言 英語が好きになる、やる気が出る評価のあり方
泉 恵美子(京都教育大学教授).....2

体験活動を取り入れた外国語活動
大谷五十二(滋賀県甲賀市立土山小学校校長).....3

実践報告 チームを組んで「楽しい英語活動」を展開する
小林秀昭(東京都江戸川区立南葛西第三小学校校長).....4

子どもたちが積極的に関わりたいとする外国語活動を目指して!
齊藤靖代(福岡県福岡市立田島小学校教諭).....6

特別寄稿 Things We've Lost and Things We've Found
根本アリソン(元・福島県双葉郡大熊町 外国人英語講師).....8

Say "Hello" with Alison!
根本アリソン(元・福島県双葉郡大熊町 外国人英語講師).....12

研究会紹介 大田原市英語活動研究会12



英語で
じゃんけんを
して乗り物カードを
集めます。楽しく
乗り物の名前を
学びました。



英語ルームで
世界旅行をしよう!
たくさんの国の
特徴を調べ
ました。

知内町英語教育
推進協議会研究大会
三校合同授業
(知内小学校・湯ノ里小学校・
涌元小学校)



北海道
知内町立
涌元小学校
中森 豊先生

英語が好きになる、やる気が出る評価のあり方

京都教育大学教授 泉 恵美子



今年度より外国語活動が完全実施となりますが、教科ではないため、数値による評価にはなじまないとされています。『小学校児童指導要録』に各学校で評価の観点を定め、児童の学習状況における顕著な事項や、どのような態度が身についたか、どのような理解が深まったかなどを文章で記述するように、とあります。それでは、どのような観点を、どのような点に留意して、児童のやる気を育てる評価を行えばよいのでしょうか。

外国語活動は、外国語を用いた体験的活動を通して、児童のコミュニケーション活動への積極的な参加の意欲や態度を重視し、言語や文化に関する気づきを促し、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養うといったことが大きな目標となります。また、文部科学省より3つの評価の観点(①コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ②外国語への慣れ親しみ ③言語や文化に関する気付き)と例が示されていますが、それらを基準に、学校独自に目指す子ども像を盛り込んで評価規準を作成されるとよいでしょう。

例えば①では、「積極的にさまざまな挨拶を言おうとしていた」など、自分の思いを相手に伝えようとしていたり、相手の思いを理解しようとする態度を、活動の観察を通して評価します。②では、「What's this?という表現を使い、相手に質問したり答えたりしていた」など、学習した表現を状況に応じて用いているかを行動や発表を観察したり、コミュニケーションの中身を確認したりすることで評価します。③では、「ALTの母国や諸外国の

小学校で学習されている教科について興味をもって聞き、違いを理解していた」など、多様なものの見方や考え方があることに気づいたり、外国文化に対する理解を深め、日本と外国の生活、習慣、行事などの違いを知っていたりするかなど、ふり返しシートなどで確認することで評価を行います。

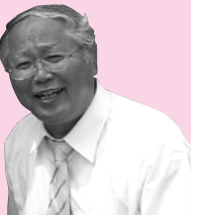
留意点として、指導計画を立てる際に、指導目標とそれに合う活動内容を設定し、評価計画を立案しておく、評価の場面を複数設けたり、観察、ワークシートやノートの点検、自己／相互評価、質問紙、インタビュー、ポートフォリオ、チェックリストなどさまざまな評価方法を工夫する、単元ごとに評価する観点を決めておくなど計画的に行うことが大切です。また、指導の過程と活動の成果を継続的・総合的に評価し、先生方の指導の改善と、児童の学習意欲の向上に生かすようにすることが重要です。自己評価は、自己肯定感と学びのプロセスを感じさせ、自信を育てるために有効です。絵を用いたリスニングクイズやALTとの会話なども授業の延長として取り入れたり、学期末のアンケートを実施したりするなど、実際に目に見える形で評価を行うこともできます。

先生方にとって負担にならないような評価方法で、できることから始め、児童のよい点や伸びる可能性を見つけ、次の目標がわかるようなフィードバックを与えます。「Good job!」「Well done!」などのほめ言葉を用いて児童のやる気を継続させるようにします。児童、教員、保護者にとって有意義な評価となりますように。

私の学校の取り組み

体験活動を取り入れた外国語活動

滋賀県甲賀市立土山小学校校長(前・甲賀市立甲南第三小学校校長) 大谷 五十二



1. 評価例集の要望

3学期も終わろうとしていたある日、ある校長先生から、外国語活動における評価の文章表記の例を教えてくださいとの依頼があった。ない場合は、表記例集を作ってほしいとのことであった。文部科学省と県外国語活動スプレッド事業の指定校として取り組んできた甲南第三小学校の活動を紹介させていただく。



忍術屋敷

2. まず担任が英語を好きになる

担任は、「英語を話す手本」ではなく、「英語を使おうとする手本」である。まずは担任が英語を好きになり、進んで話そうとする姿こそ、子どもたちのやる気を引き出すよいお手本であると考えた。



修学旅行でのインタビュー

3. 子どもを心からほめる

「英語がよかった」「発音がよかった」という評価はせず、話す内容、態度を「Good job!」「Excellent!」と心からほめるようにした。指導と評価の一体化につとめ、活動ごとの自己評価や相互評価、ビデオによるスピーキングチェックを実施した。定着を求めずに、「よく覚えているね」「もう一回聞いてみよう」と声をかけると、「間違ったらどうしよう」と自信がなかった子どもたちも、英語を話すことに抵抗感がなくなり、外国語活動を楽しむようになった。

4. やる気が出る活動

修学旅行での海外からの旅行者へのインタビュー活動、甲賀市の姉妹都市ミンガン州の中学生との交流、市内にある甲賀流忍術屋敷での案内など、英語で躊躇することなく積極的に話しかける姿が見られるようになった。特に「自分の思いが伝わった。通じた。相手の英語が聞きとれた」と成功体験を積み上げ、自信を深めるよい機会になった。学習が進むにつれ、活動を心待ちにする児童が出てきた。

5. 評価の実際

(1) ふり返しカードより

英語で案内や説明をするのが難しかった。でも、外国の人に「上手だね」「イングリッシュ、パーフェクト」などと言ってもらえてうれしかった。

(2) 外国語活動の様子 「～できる」などを使わずに

コ：忍術屋敷の案内をするとき、とても積極的にたくさんの方の案内をしようとしています。
慣：忍術屋敷のからくりの「中二階」の説明は長く難しかったのですが、英語でがんばって説明したいという思いを持って発音しています。
気：からくりの説明で、日本語と英語の表現を比べて、英語ではどのような表現をするのか考えています。

コ：コミュニケーションへの関心・意欲・態度／慣：外国語への慣れ親しみ
気：言語や文化に関する気付き

チームを組んで「楽しい英語活動」を展開する



東京都江戸川区立南葛西第三小学校校長(前・中野区立白桜小学校校長) 小林 秀昭

1. 白桜小の英語活動の方針

『ネイティブにこだわり、「楽しい英語活動」を展開する』これが白桜小学校の英語活動の方針です。具体的には、どうすればよいのでしょうか。

2. チームを組んで英語活動を展開するとは

私たちが考えたのは、教師がチームを組んで活動を展開するということです。

このチームには母国語を英語とするALTがいます。平成22年度は、2名のALTを合計40時間に配置することができました。これがネイティブへのこだわりです。

もちろん活動を展開していくのは担任です。しかし、担任が毎時間レッスンプランを作成していくのは困難です。また、学級ごとの進度を調整していくのも簡単ではありません。

これを解決したのが、英語活動担当の専科教員の存在です。本校は、2年間にわたり、統合加配の配置教員をこれに充てました。5、6年生は毎週英語活動があるので、この専科教員が事前にレッスンプランの作成、そして、担任との打ち合わせ、活動のリハーサルを行いました。当日は、ALTと打ち合わせ事項を再確認して、英語活動をリードするとともに、連絡・調整をするコーディネーターの役割も担っていました。英語活動の専科教員はとても大きな存在です。

3. スーパーバイザーの存在

もう一つチームの中心的役割を担ってきていただいた大切な存在があります。それは、スーパーバイザーの阿部フォード恵子先生です。年間を通して指導していただいています。当日の授業や日々のレッスンプランの提案・修正などたくさんの助言をいただきました。また、年間2回の英語研修会にも来ていただき、ご指導いただいています。

また、5、6年生の英語活動には、もう一人、アリス先生

(退職された日本人の先生)にボランティアで入っていただいています。グループごとの活動では、担任と役割を分担し、必ず1グループごとに先生が一人つきます。また、英会話や活動の師範なども、まず先生方で示すことができます。

こうして、白桜小学校の英語活動は少なくとも2名から3名以上のチームを組み、活動を展開してきました。

4. チームを組んで活動を展開した成果は

チームを組むことで、英語活動は一人で取り組むのではないことを心に刻み、(実際に活動を展開していくことは大変ですが)みんなで活動するという安心感を得られます。その中で白桜小学校の年間指導計画を検証し、独自の35時間分のレッスンプラン(活動の指導案集)ができあがりました。

今年度、統合加配が終了し、英語専科教員が担当を退いても、担任がレッスンプランを修正したり、新たに作ったりすることができるようになっています。

5. 英語活動が好きになるための工夫

私たちにはもう一つ英語活動へのこだわりがあります。このこだわりによって、子どもたちの「楽しい英語活動」を継続できたのだと思います。

～私たちの英語活動へのこだわり～

(1)英語活動は専用のイングリッシュルームで行う

このイングリッシュルームに入るには、まず担任自らがモチベーションを高めなくてはなりません。指導者がまず明るい気持ちになって活動に臨みます。そして、活動しやすいように机は使わず、椅子をアルファベットのUの字に配置して使います。教室環境への気遣いも大切なポイントです。



イングリッシュルーム～Uの字形に椅子を配置し、活動しやすい

(2)評価につなげる「始まりと終わりの挨拶」

担任がイングリッシュルームに子どもたちを引率していくと、英語担当やALTが入口で待っています。普段、教室で授業を行うように「これから、英語活動を始めます。気をつけ、礼」などの挨拶はしません。“Hi, good morning.”と言って必ず相手の目を見て、握手をして入ります。

帰りにも、もちろん挨拶をして教室に戻りますが、ここで今日の英語活動のふり返りをさせ、見取ります。この場面が私たちの「英語活動の評価」に当たります。子どもたちは今日習った英語を一言必ず言わなくてはなりません。印象に残った単語を言う場合や、英語で質問したり、答えたりする場面もあります。そして“Thank you.”と言って相手の目を見て、握手をし、教室を出ていきます。英語活動は、人と人とがコミュニケーションをとる大切な機会となります。「必ず目を見て」と言うのがこの場面での私たちの口癖です。



「必ず目を見て」しっかり挨拶

(3)まずは、教師が師範

活動は大人同士がまずやってみせます。ただ、子どもにやらせるだけでは、英語嫌いを生みます。教師が楽しくやってみせることで、子どもたちも「できるんだ」と思ってくれます。

教師の心得としては、「否定はしない」「まずは受け止める」「くり返す中で、自然に修正していく」これが基本です。活動の中では、間違っていて「それは違いますよ」と否定はしません。

6. ふり返りと「英語が好きになる評価の書き方」

ご存じのように外国語活動の評価には、3つの観点があり、最終的には活動の内容・評価を文章で表記していくことになります。

私たちは、大きな活動の区切りに、子どもたちに「自己評価」を書くプリントを配ります。内容は「とても楽しかった」「楽しかった」「普通」「楽しくない」などの項目に○をつけ、感想を数行書く程度の簡単なものです。

感想が書かれたプリントには、担任から励ましのコメントをたくさん書いて返却します(評価の基本です)。

昨年度、研究授業の際に、特別にアンケートをとりました。5年生の結果は、「英語活動は好きですか」の問いに嫌いは0%、やや好きは58%、好きは42%でした。この2年間の活動で英語嫌いの傾向が表れていなかったのはとても嬉しいことです。

小学校の外国語活動は、各単元に設定されている語彙や表現を「聞くこと」「話すこと」を通して、慣れ親しむことであり、定着を第一のねらいとはしていません。(ちなみに、中学校の外国語科では、外国語の技能を身につけることが第一のねらいです。)

白桜小学校が、英語活動を通して、英語を何度もくり返し聞いたり、話したりするように工夫してきたことが、「楽しい英語活動」を支えてきたのだと考えます。

子どもたちが積極的に関わり合おうとする外国語活動を目指して!

～『英語ノート』を活用した単元構成と評価の工夫～

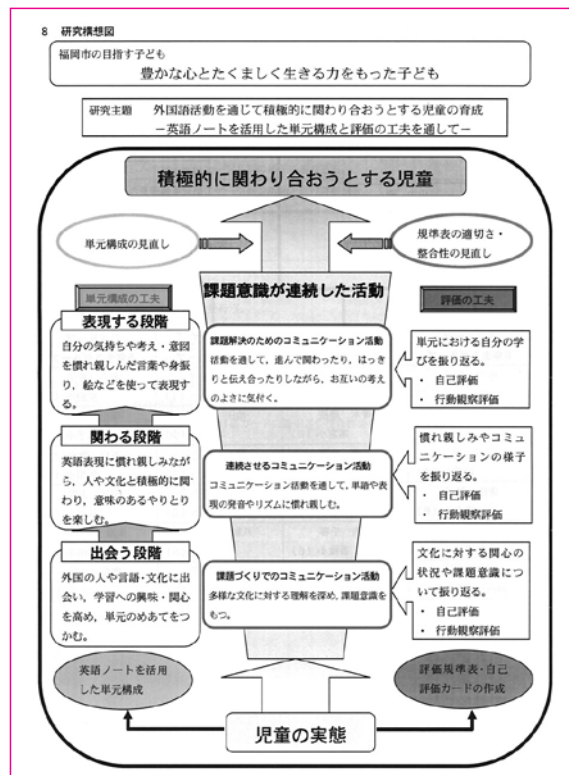


福岡県福岡市立田島小学校教諭 齊藤 靖代

1. はじめに

私は福岡市外国語活動研究委員会に所属し、「指導と評価を一体化させた授業づくり」に視点を定め、評価規準の設定や子どもの見取り方についての研究をさせていただきました。その中で、資料1のような構想をもとに、子どもたちの課題意識を連続させるための評価のあり方を研究し、授業実践を行いました。

資料1：研究の構想



出典：「福岡市小学校外国語活動研究委員会紀要」(平成22年度)

2. 3つの段階と評価

まず、外国語活動の指導計画を立てる際には、子どもの課題意識を連続させるために、一単元の内容を「出会う段階」「関わる段階」「表現する段階」の3つに分けます。それ

ぞれの段階でどんなコミュニケーション活動をすればよいのかを考え、「言語や文化に関する気付き」「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語への慣れ親しみ」の3つの評価をどの場面で行うのかを決めます。さらに、各時間のねらいをおおむね達成していると思われる子どもの姿を具体的にイメージします。これらをもとに評価規準表を作成し授業に臨みました(資料2)。

資料2：一単元の単元構成と評価規準

段階	時	ねらい	活動 / 評価規準	表現例
出会う	1	○ 外国の小学校でどのような学習をしているのかを知る。 ○ 教科名や曜日の英語表現を知る。	活動名「スコット先生の国の学習は？」 「指差し・ジェスチャーゲーム」 評価規準 GTの母国の学校で学習した教科の話に興味をもって聞いている。	What subject is it? It is - Math, arts and crafts, science, social studies, P.E., music ...
	2	○ 歌やゲームを通して、曜日や教科名の言い方に慣れる。	活動名「カードを使ってやってみよう」 「Subjectクイズ・ビンゴゲーム」 「Subjectカルタ」 「Subjectすいじやく」 評価規準 教科名を聞いて理解し、友だちや教師とのゲームを楽しもうとしている。	What subject do you study? Math, arts and crafts, science... Monday Tuesday Wednesday... I study ~.
関わる	3	○ 世界の小学校で学習している教科を調べ、自分たちとの違いや共通点を知り、自分のオリジナル時間割を作る。	活動名「調べてみよう世界の時間割」 「オリジナル時間割を作ろう」 評価規準 世界の時間割について意欲的に調べ、日本と外国で学習する教科の違いや共通点に気づいている。	It is - Math, arts and crafts, science, social studies, P.E., music ...
	4	○ グループで時間割を作成し、その時間割を工夫して伝えようとする。 ○ 友だちの発表を反応しながら聞き、よさに気付いている。	活動名「時間割発表会」 「ジェスチャーゲーム」 評価規準 ○ グループでオリジナル時間割を考え、英語で発表しようとしている。 ○ 友だちの発表を反応しながら聞き、よさに気付いている。	It is our schedule. On Monday~, What subject do you study? I study ~. That all Thank you. Why did you make?
表現する	5			

これにより、1時間の活動内容と評価規準が一体化し、次の時間の活動につなげるために、子どもたちにどのように関わればよいのかが明らかになりました。

次に、子どもの自己評価カードの工夫です(資料3)。1枚のカードに各時間の評価内容を子どもの立場で表記することで、子どもが見通しを持って活動できるようになりました。また、最後の「表現する段階」では、一単元分の活動を振り返りながら自己評価ができ、子どもたちは、自分の成長に気づき、達成感を感じることができたようです。

資料3：自己評価カード

3. 実践:『英語ノート1』Lesson 8「時間割を作ろう」

(1)「出会う段階」での評価

子どもたちの課題意識を連続させるためには、「出会う段階」で興味を広げる必要があります。本単元では、Guest Teacher(以下GT)の母国の小学校の時間割を提示し、学習の様子をGTに話してもらいました。外国の時間割に興味をもった子どもは、他の国についても知りたいと思い、意欲的に調べていました。

活動後の子どもの自己評価カードには、自分が興味をもった学習のことやGTの話がわかった喜び等の記述があったので、そうした反応を大切に、日本と外国の時間割の違いや共通点に気づいている点をほめたり、今後のオリジナル時間割作りを活用したい事柄を考えるように助言したりしました。

(2)「関わる段階」での評価

この段階の冒頭で、最後の「表現する段階」での具体的な姿を子どもに伝えました。今回は、各自が考えたオリジナル時間割を班で一つにまとめ、クイズ形式にして発表するという方法です。

活動を具体的に示すことで、子どもたちは、だれに、何を、どのようにして伝えるのかを具体的にイメージすることができ、教科名や曜日の英語表現を使って伝えようという意欲を高めながらどんな時間割を作るか互いに考えを話し合っていました。

ここでは、子どもたちの主体的な活動を認めるような書き方で評価をしました。ゲームを通して英語表現を使う場面で、たくさんの人と関わり合いながら発話している姿や教師にどのような言い方をするのか何度もたずねながら自分で発話している姿を取り上げて評価しました。また、各班で時間割をまとめている場面で、友だちの考えのよさを認めながら話し合っている姿や、他の国について学習したことを活かそうとしている姿などを取り上げて評価しました。

(3)「表現する段階」での評価

今回は、各班で考えた時間割、GTが考えた時間割、担任が考えた時間割を提示し、だれがどの時間割を作ったのかを当てるゲーム形式での発表会にしました。伝える側は、曜日ごとに一人1回出番を作り、クイズを出題します。聞く側は、言葉を聞き取ったり、ジェスチャーを見たりして、どの時間割を作ったのかを当てます。また、なぜそのような時間割を作ったのか質問する場も設けました。

ここでは、一人ひとりの活動の様子が見やすく、発表者については、声の大きさ・表情・動き等の様子を、聞き手については、聞いているときの反応の様子を具体的に評価できるようにし、自己評価カードに表記しました。

単元のふり回りの段階では、「この単元では、○○の場面で、□□をしていたところが前よりよくなった。」などと、子どもが成長した部分を伝えるようにしました。

4. おわりに

外国語活動の授業を積み重ねる中で、より子どもの実態を踏まえた目標を設定し、評価規準表や自己評価カードの改善が必要になると実感しています。

英語は難しいと緊張して臨むのではなく、子どもの様子にアンテナを張って、子どもたちが多くの人とコミュニケーションを図り、いきいきと活動できるようにするにはどうすればよいのかを考えながら授業づくりをしていきたいと思います。

Things We've Lost and Things We've Found

元・福島県双葉郡大熊町
外国人英語講師 根本 アリソン

1. Friday 11 March 2011

On the day of the earthquake and Tsunami I was at home in Odaka-ku, Minami Soma City. Normally I would have been at school in Okuma right next to the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant. My daughter Liana (15) had her graduation from her junior high school that morning and so my husband and I had taken the day off work to attend the ceremony, marking the end of one stage of her life and the beginning of another. All the high school students in the area had the day off too, so my daughter Emily (17), and my parents-in-law who are rice farmers, were at home too. We were very shocked by the force of the earthquake that seemed to go on forever, but thankfully our house wasn't severely damaged. The aftershocks were big too and through the TV news we gradually began to realize the scale of the damage.

Our house is just 4 km from the coast, but as we watched the scenes of the Tsunami in Miyagi Prefecture on TV we never thought the same deadly waves would reach us in Fukushima. My husband soon went by car and collected our youngest daughter Naomi (10) from her school, which is only 3 km from the sea and we have realized now, that at about the time they reached our home the Tsunami began to engulf our town. Thankfully, all the children were safe, the school is built on high ground, but of course many of our friends, parents and grandparents of children at the same school and our own relatives were killed as their homes were washed away.

2. Evacuation

After the earthquake we had electricity at our home, but no mains water. Because it's an old farmhouse though, we have a well and were able to draw water for the toilet, cooking and our bath that night. My husband is a civil servant working in Soma City now, but he went straight to Odaka Town Hall to help as soon as he realized that there had been a Tsunami and I didn't really see him for the next 3 days. The six of us, Grandpa, Grandma, my three daughters and myself had to manage by ourselves.

The first night we made about 30 rice balls for people in our neighborhood, who had no electricity and spent the night huddled together very frightened, trying to sleep through the aftershocks. The next day we found out about the accident at the Nuclear Power Plant, which just added to the shock and fear we felt already. At 7 pm on 12 March we were ordered to evacuate by car to a gym in Haramachi. Hundreds of people were all evacuating at once, so this caused long traffic jams as we all fled in fear, not really being able to take in what was happening. We spent the next 3 days, living on a white riceball and bottle of water for each meal.

At that time there was no petrol for sale, only emergency vehicles could get fuel, so people couldn't even get away to the safer, central part of Fukushima or further away, but luckily we had a full tank, and on Monday 14 March the six of us left my husband to help the City as much as he could and drove to Aizu

謹んで東日本大震災による災害のお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

このたび、Say "Hello" with Alison! コーナーの著者である根本アリソン先生に、大震災という希有なご経験について、特別に寄稿していただきました。

Wakamatsu City. This is 100 km west of the Plant and our home and we were very lucky to be able to rent a furnished old farmhouse from very kind friends for one month.

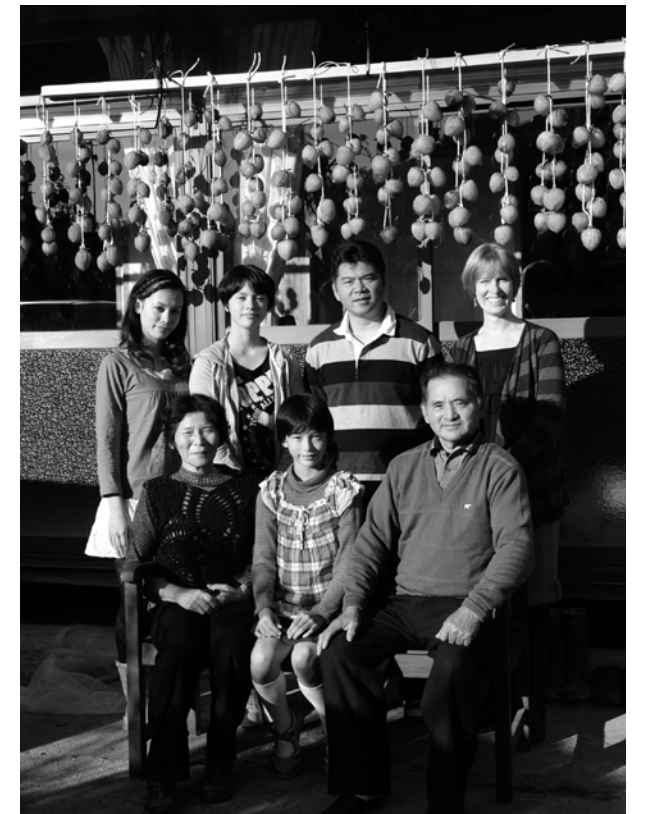
After that, since 15 April, we have begun living in Soma City with my husband, in a rented house belonging to relatives, our daughters are all going to new schools and I am doing volunteer work.

There is no P.E. or sports day, not outings or outdoor activities, but at least they are getting educated and have made friends.

3. Changes

Our lives have been changed since 11 March in so many ways. We have lost so much, our friends and relatives, our house, our farming land, our schools and livelihoods, our security and peace of mind. We have also gained so much, a sense of belonging with others in the same situation, confirmation of love and friendship from relatives and friends, support and kindness from strangers and a very strong bond of love and support in our family, which has kept us all going through the most terrible times in the last two months.

We don't know what will happen in the next year or beyond, but for the time being we are all doing our best to cope in our new situation. We are together, supporting each other as a family and trying our best to help our friends, relatives and through volunteer work also help people in our community who are in a much worse situation than ours.



根本アリソン先生は現在、ご自宅で英文添削、英語翻訳サービスを行っていらっしゃいます。▶ http://www10.plala.or.jp/ali_take/

失ったもの, 見つけたもの

1. 2011年3月11日(金曜日)

震災当日, 私は自宅にいました。普段なら私は福島第一原子力発電所のすぐ隣にある大熊町の学校に勤務しているのですが, この日は夫と私は午前中行われた次女李安奈(15歳)の中学校の卒業式に列席したあと, 帰宅していました。地域の高校もみな休みで, 長女の英美理(17歳)も, 農業を営む夫の両親も, 自宅にいたのです。

激しい揺れは永遠に続くのかとさえ思われ, 大変な衝撃を受けました。幸いにも私たちの家にはそれほど損傷がなかったのですが, 強い余震の中, テレビニュースで次第に被害の大きさがわかってきました。

テレビで宮城県の津波の映像を見ながらも, 福島県にも破壊的な津波が襲ってくるとはだれも思っていませんでした。夫はすぐに車で三女の奈央美(10歳)を海岸から3キロしか離れていない小学校に迎えに行きました。今になってわかったことですが, ちょうど二人が帰宅したころ, 津波が南相馬市に到達し, 町を飲み込み始めたのです。小学校は高台にあったため, 幸いなことに子どもたちは無事でしたが, 多くの家が流され, 学校の子どもの両親や祖父母が大勢亡くなりました。私たちの友人や親戚も亡くなりました。

2. 避難

家には地震があったあとでも電気が通っていました。水道は止まりましたが, 古い農家で井戸があったので, 当日の夜は水を使うことができました。夫は相馬市の職員なのですが, 津波が町を襲ったと気づき, すぐに南相馬市小高区役場に救援に走りました。それから3日間は夫と会えず, 夫の両親と3人の娘たちと私の6人でこの状況を乗り切らなくてはなりません。

最初の晩, 私たちは電気が止まった近所の人々のために30個のおにぎりを作り, 余震におびえながらも, どうにか

睡眠を取ろうと身を寄せ合いました。翌3月12日には原子力発電所の事故が起き, 私たちの衝撃と恐怖はさらに増しました。その日の夜7時, 避難指示が出されました。だれも何が起きているのかよくわからないまま, 数百人がただおびえながら一斉に避難しようとし, 大渋滞が起きました。私たちはそれから3日間, 体育館で出される白いおにぎりと, ペットボトルの水だけで過ごしました。

緊急車両以外は車の燃料を入手することができませんでしたが, 幸運にも私たちの車はガソリンが満タンだったため, 原発や自宅から西へ100キロほど離れた会津若松市へ移動しました。友人の家が借りられたので, そこで1か月を過ごしました。夫はできるかぎり人々を助けるために被災地に残りました。

そして, 4月15日からは夫のいる相馬市に住み始めました。親戚から家を借り, 娘たちは学校に通い始めました。体育の授業, 運動会, 遠足など屋外での活動はありませんが, 少なくとも娘たちはきちんと教育を受け, 新しく友だちを作っていますし, 私はボランティアをしています。

3. 変化

私たちの生活は3月11日以降, 大きく変わりました。友人, 親戚, 家, 農地, 学校, 生活手段, 安全, そして私たちの心の平穏が失われてしまったのです。その一方で私たちはまた, 多くのものを得ました。同じ状況を過ごす他者との一体感。親戚や友人の愛情と友情の再認識。さまざまな方からの支援。そして家族の愛情と支え合う強い絆によって, この2か月の最も恐ろしい時間を共に乗り切ることができたのです。

これから何が起きるかわかりません。ですが, 今, 私たち家族はこの状況にできるかぎりの力で立ち向かっています。家族として共に支え合いながら, さらに苛酷な状況にいる友人, 親戚, そして地域の人々のお手伝いに全力を注ぎようとしています。

開隆堂の小学校英語教材

新刊



文部科学省『英語ノート』対応 DVD
アニメで楽しく英語活動 — 単語チャンツ, クイズ, 歌 —

『英語ノート1』対応 DVD
アニメで楽しく英語活動 1
『英語ノート2』対応 DVD
アニメで楽しく英語活動 2

各 10,000円(本体9,524円) 各DVD1枚 約50分 手引書付

- 『英語ノート』の各課より単語, 英語表現, 歌を中心に取り上げ, 映像を視聴しながらリピートしたり, クイズ形式で答えたりするアクティビティを収録しています。
- 各課に以下の中から2~3のアクティビティが入っています。
 - ① 単語チャンツ: アニメとリズムにのせて, 単語の発音練習をします。
 - ② クイズ: イラストを使ったクイズ形式で, 単語や大切な英語表現の定着を図ります。
 - ③ 歌: 音声とともに, 動作を見ながら一緒に歌います。

好評発売中

これができる! 『英語ノート1』完全対応
授業指導書1 パーフェクト版

これができる! 『英語ノート2』完全対応
授業指導書2 パーフェクト版

各 定価 18,900円(本体 18,000円)

本商品は, さまざまな授業の形態や場面に応じた指導法を, ①指導書2種類(学級担任ソロ用/TT用), ②指導法DVD, ③音声CD, ④ワークシート集, ⑤CD-ROMなどのツールを効果的に活用しつつ, 懇切丁寧に解説してある指導書セットです。

経験が浅い先生から外国語活動を一步進めていきたい先生まで, また ALT(外国語指導助手)とのTT(チームティーチング)授業にも幅広く活用いただけます。





Say “Hello” with 17 Alison!

根本 アリソン

イギリス出身・1989年より福島県で英語講師として活躍

■『英語ノート』で楽しい聞きとり指導のポイント

『英語ノート』にあるLet’s Listenの活動はテストではないので、児童に“One more time?”などと問いかけ、英語の音声を聞くチャンスを十分与えるようにしましょう。前回に続いて、『英語ノート 1』Lesson 4 (p.24)を例に、聞きとり指導のポイントについて解説します。

Post-Listening Techniques(聞いたあとの指導)

例えば電子黒板を使うなどして、児童を一人指名し、みんなの前で線を結ばせます。問題が解けない児童を選ぶと戸惑ってしまうので、テキストに正しく書いている児童を選びます。もう1回音声を流してリピートさせると、より深く児童の印象に残り、正しいインプットとなります。

“Very good!” “That’s great!” “難しいのによくわかりましたね。” “早かったのによく聞きとれたね。” など活動の最後に児童をほめることも大切です。さらに、聞きとりをスピーキング指導に広げることできます。Ken, Ryo, Maiなど登場人物のカードを準備し、それぞれのセリフにチャレンジさせましょう。そのあとには、自信がある児童に同様の自己紹介をしてもらいましょう。

(元・福島県双葉郡大熊町 外国人英語講師)

研究会紹介

大田原市(栃木県) 英語活動研究部会

大田原市は教育課程特例校の認可を得て、小学校1年生から英語活動を実施しております。当研究会は本市が英語教育特区を申請した平成16年度に設立され、年間指導計画の試案作成や修正を主な研究内容として活動しております。

本研究会の構成メンバーは、小学校、中学校(英語科)の教員、市で採用する英語活動指導員やALT代表から成り、職種や経験年数等が多岐にわたっているため、さまざまな立場や視点から熱心な協議が重ねられております。

平成22年度は、評価の視点から年間指導計画を見直し、修正を図りました。今年度からの新学習指導要領全面実施に伴って、小学校の先生方の負担感や中学校との接続のしかた等のほか、今後予想される課題もあります。それらの解決に向けて、同じ市内に勤務する仲間であるという協働意識や、共に高め合い、切磋琢磨する気持ちを大切にしながら、「すべては子どもたちの未来のために」をモットーに、地道な研究や活動をしてまいりたいと考えております。

大田原市英語活動研究部会 明澤伸宏
(大田原市教育委員会学校教育課)



Pupil: Would you punish me for something I didn't do?

Teacher: Of course not.

Pupil: Good, because I haven't done my homework.

生徒: 先生、何かしなかったことでお仕置きをされることってありますか?

先生: もちろんないですよ。

生徒: よかった。まだ宿題をやっていないんです。

小学校英語情報誌

Hello, Kids!

Vol.5-3(通巻17号)

定価120円(本体114円)

送料80円

平成23年6月10日印刷 平成23年6月15日発行(年4回発行) 編集兼発行人 山岸 忠雄

印刷所 株式会社興陽社 〒113-0024 東京都文京区西片1-17-8

発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1

☎03(5684)6121(営業), (5684)6118(販売), (5684)6115(編集) <http://www.kairyudo.co.jp/>



開隆堂出版株式会社

〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03(5684)6111

北海道支社 〒060-0061 札幌市中央区南一条西6-11 札幌北辰ビル8階 ☎011(231)0403
東北支社 〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町1-11-1 萩野町Mビル2階 ☎022(782)8511
名古屋支社 〒464-0802 名古屋市千種区皇が丘元町14-4 皇ヶ丘プラザビル6階 ☎052(789)1741
大阪支社 〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16 ☎06(6531)5782
九州支社 〒810-0075 福岡市中央区港2-1-5 F Y Cビル3階 ☎092(733)0174